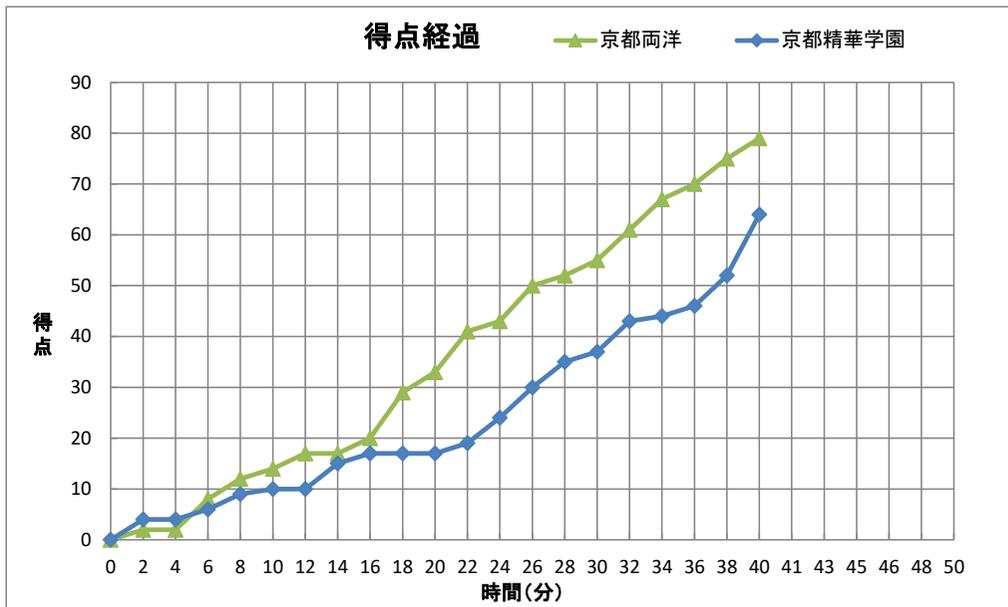




第42回京都府高等学校選手権大会 兼
第75回全国高等学校バスケットボール選手権大会京都府予選

個人トータル表

男子		10月30日		11:40 開始													
決勝リーグ		島津アリーナ京都		M													
◎ 京都両洋		79		64 京都精華学園													
		<table border="1"> <tr><td>14</td><td>1st</td><td>10</td></tr> <tr><td>19</td><td>2nd</td><td>7</td></tr> <tr><td>22</td><td>3rd</td><td>20</td></tr> <tr><td>24</td><td>4th</td><td>27</td></tr> </table>		14	1st	10	19	2nd	7	22	3rd	20	24	4th	27		
14	1st	10															
19	2nd	7															
22	3rd	20															
24	4th	27															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	谷 哲平	0	0	0	0	2	1	金井 奏太	-	-	-	-	-				
5	田村 留樹哉	3	1	0	0	0	3	矢野 陽向	3	1	0	0	2				
6	仲野 政真	0	0	0	0	1	* 6	上野 叶翔	6	0	3	0	2				
* 7	森川 綾哉	26	4	7	0	2	8	阿比留 楓斗	-	-	-	-	-				
* 8	齋藤 連人	16	1	6	1	4	* 11	鈴木 瑛晶	9	3	0	0	1				
9	谷 大介	-	-	-	-	-	13	新開 温矢	1	0	0	1	0				
10	高橋 慈央	2	0	1	0	0	14	西村 晴太	3	1	0	0	1				
* 11	森 弥月	19	0	7	5	1	* 17	藤内 翔真	13	0	5	3	3				
* 12	所 龍之介	11	3	1	0	3	18	中井 楓弥	-	-	-	-	-				
13	福井 鉄士	2	0	0	2	1	19	善山 莞太	-	-	-	-	-				
14	小川 凌来	0	0	0	0	0	30	中西 飛翔	-	-	-	-	-				
15	井尻 翔太	-	-	-	-	-	* 32	東郷 然	11	1	4	0	3				
16	岡田 充賀	-	-	-	-	-	34	前 和成	-	-	-	-	-				
17	谷 大介	0	0	0	0	0	55	下境 竜也	-	-	-	-	-				
18	越智 駿斗	-	-	-	-	-	* 77	ゾロモン レイモンド オ ネカチュク	18	0	8	2	2				
コーチ	瀬戸山 京介					0	コーチ						0				
Aコーチ	濱頭 連太郎						Aコーチ										
合計		79	9	22	8	14	合計		64	6	20	6	14				
主審: 赤井 正史																	
副審: 大溝 貴広																	
副審: 山下 大輔																	



CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	36:22	38:45	:	:	:	:	:
TeamB	8:37	17:29	31:34	34:57	38:10	:	:	:	:

〔戦評〕
ウインターカップ京都府予選 決勝リーグ最終戦 京都両洋と京都精華の対戦

第1Q 両洋はハーフコートマンツーマン、精華は2-2-1ゾーンプレスから2-3ゾーンでスタート。精華#17のドライブで先制するが、両洋も#7のジャンパーを決め返し両チームとも幸先の良いスタートを切る。精華は#32の1on1、#77の高さを生かしたポストプレーで流れを掴もうとするが、なかなか得点できない。一方、両洋は#12のスティールからレイアップ、#11のフローターなどで徐々にゲームの流れを掴み始める。14対9と両洋リードとなったところで精華1回目のタイムアウト。タイムアウト後、精華はディフェンスを1-2-1-1ゾーンプレスに変え、ボールマンにプレッシャーをかけるがその後、お互いに決定的なプレーはなく一進一退の攻防が続き14対10両洋リードで2Qへ。

第2Q 両洋はオールコートマンツーマンに変えボールマンへのプレッシャーを強める。両チームとも2分間無得点であったが、両洋#11のリバウンドからのバスケットカウントで流れが両洋に傾き始める。しかし、精華は#77の高さを生かしたポストプレー、交代出場の#14の3Pで流れを渡さない。お互いに得点が伸びない時間帯が続くが両洋#5#7#12の3Pで一気に点差が開き始める。さらに両洋#12の連続3Pが決まり29対17両洋リードで精華はたまたま2回目のタイムアウト。両洋は精華のタイムアウトを利用してさらにボールマンにプレッシャーをかけ流れを渡さず、33対17両洋リードで3Qへ。

第3Q 両チームともディフェンスは変わらずスタート。両洋はゾーンに対して果敢にリングアタックを続け、#8の合わせからレイアップ、ステップインなどで最大の20点差とする。一方、精華は2-2-1ゾーンプレスに変え流れを変えようとするが、#77がリバウンドに奮起するも得点に繋がらず苦しい時間帯が続く。精華は#77にボールを集め反撃のきっかけを掴もうとするが、得点に繋がらない。残り2分、両洋のターンオーバーから#17が速攻でレイアップ、#11が3Pを決め、流れが精華へ傾き始める。さらに、#77のリバウンドから#17のゴール下シュートで52対32と15点差に詰め寄るが、両洋#7の3Pが決まり55対37両洋リードで最終Qへ。

第4Q 精華#32のドライブで先制し、追い上げを図るが、両洋#7#8の3Pで流れを渡さず、61対41となったところで精華はたまたまタイムアウト。両洋はドライブからキックアウトで3Pを打ち続け、#7#12の3Pでさらにリードを広げ、勢いは止まらない。反撃を試みる精華は、ゾーンプレスのプレッシャーを強めるが、攻撃ではタフなシュートが続かなか得点できない。残り5分67対44となったところで精華2回目のタイムアウト。終盤、激しい攻防となり精華#3の3Pで何とか食らいつこうとするが、両洋は巧みなパスワークでゲームを支配し、その後も確実にフリースローを沈める。精華も#11の3P、#17のドライブで最後の力を振り絞るが点差は縮まらず、79対64で京都両洋の勝利となった。

戦評: 鳥羽高校 福嶋 一夫 記録: 東宇治高校 本田 英嗣